

科目名	ネットワークⅡB									
科目名(英)										
単位数	6単位		時間数		90時間		担当者		打越 直美	
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験		IT企業のエンジニアとして勤務	
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年									
授業概要	スイッチングの基礎、スイッチネットワークの冗長構成、スイッチリンクの高速化、スイッチネットワークのセキュリティに必要な技術を学習し、小規模ネットワークの構築と運用ができるようになる									
	iCDタスクコード		DV04.9.1							
授業形態	講義：○		演習：△		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				スイッチネットワークの仕組みを説明できる				
	○	○				小規模ネットワークの設定、動作確認ができる				
	○	○				小規模ネットワークの運用、トラブルシューティングができる				
テキスト・教材 参考図書	シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト&問題集[対応試験]200-301(翔泳社)									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1-2	スイッチングの仕組み								
	3-4	スイッチの基本設定と確認								
	5-6	VLANの概要								
	7-8	トランキングプロトコル								
	9-10	DTPによるネゴシエーション								
	11-12	VTPによるVLANの管理								
	13-14	VLAN間ルーティングの仕組み								
	15-16	VLANの設定と確認、トラブルシューティング								
	17-18	STPの概要								
	19-20	STPポートの役割								
	21-22	STPのトポロジー変更								
	23-24	STPの設定と確認								
	25-26	STPの拡張機能								
	27-28	RSTPによる高速化								
	29-30	EtherChannelの仕組み								
	31-32	EtherChannelの設定と確認								
	33-34	IPv6の概要								
	35-36	IPv6アドレッシングの設定								
	37-38	FHRPの概要								
	39-41	HSRPの基本設定と確認								
	42-43	スイッチのセキュリティ機能								
	44-45	ポートセキュリティの設定と確認								
	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で確認テストを10回実施する。(3)実習内容を課題レポートとして提出させる。(4)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		



科目名		サーバー構築・運用演習 I						
科目名(英)								
単位数	6単位		時間数	90時間		担当者	打越 直美	
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年		情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要		インターネットサーバーの基本となるDNS、Web、メールの仕組みを理解し、Linux環境で各サーバーを構築する手順を習得する						
		iCDタスクコード		DV04.4.1、DV04.7.1				
授業形態	講義：△		演習：○		実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				DNSの仕組みを理解し、Linux環境でDNSサーバーの構築、動作確認ができる		
	○	○				Webの仕組みを理解し、Linux環境でWebサーバーの構築、動作確認ができる		
	○	○				MAILの仕組みを理解し、Linux環境でメールサーバーの構築、動作確認ができる		
	○	○				要件通りにサーバーを構築し、トラブルシューティングができる		
テキスト・教材 参考図書		AWSではじめるLinux入門ガイド(マイナビ出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1-4	実習環境準備、前期コマンド復習				前期のLinuxコマンドを復習すること		
	5-8	DNSサーバー：DNSの仕組み、BIND設定						
	9-18	DNSサーバー：ゾーンファイル設定、マスタースレーブ				DNS演習のエビデンスを提出すること		
	19-22	Webサーバー：Webの仕組み、Apache設定						
	23-26	Webサーバー：Webの仕組み、Nginx設定				Webサーバー(Apache)演習のエビデンスを提出すること		
	27-29	Webサーバー：モジュール、ユーザー認証				Webサーバー(Nginx)演習のエビデンスを提出すること		
	30-33	Webサーバー：ユーザーディレクトリ、バーチャルホスト						
	34-36	MAILサーバー：メールの仕組み						
	37-40	MAILサーバー：Postfix設定、Dovecot設定						
	41-43	MAILサーバー：メーラー設定、SMTPコマンド、POPコマンド				MAILサーバー演習のエビデンスを提出すること		
	44	総合演習課題1						
	45	総合演習課題2				演習課題のエビデンスを提出すること		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で確認テストを2回実施する。(3)実習内容を課題レポートとして提出させる。(4)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	○	◎				30%	
	確認テスト		◎				20%	
	課題レポート		◎	○			30%	
	受講状況				◎		20%	
履修上の注意								

科目名	ネットワーク構築演習 I B									
科目名(英)										
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		打越 直美	
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年									
授業概要	イーサネット技術を理解し、ルータやスイッチを組み合わせてネットワークを構築するために必要な設定、動作確認、トラブルシューティングができるようになる									
	iCDタスクコード		DV04.4.1							
授業形態	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				スイッチングの基本機能、仕組みが説明できる				
	○	○	○			スイッチングに関する設定、動作確認ができる				
	○	○	○			スイッチングに関するトラブルシューティングができる				
テキスト・教材 参考図書	シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト&問題集[対応試験]200-301(翔泳社)									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1-2	VLAN(基本設定、トランク、ネイティブVLAN)								
	3-4	VLAN(DTP、VTP)								
	5-6	VLAN間ルーティング					VLANの基本設定を復習する			
	7	コマンド復習、テスト1								
	8-9	スパニングツリープロトコル								
	10-11	スパニングツリープロトコル(拡張機能)					STPの基本設定を復習する			
	12-13	EtherChannel(スタティック)								
	14-15	EtherChannel(ダイナミック)					EtherChannelの基本設定を復習する			
	16-17	IPv6(基本設定、スタティックルーティング)					IPv6の基本設定を復習する			
	18-19	HSRP					HSRPの基本設定を復習する			
	20	コマンド復習、テスト2								
	21-23	複合ネットワーク(STP、VLAN)								
	24-26	複合ネットワーク(STP、HSRP)								
	27-28	ポートセキュリティ								
	29-30	小規模ネットワーク構築								
評価方法	(1)実習内容を課題レポートとして提出する。(2)授業の中で授業内評価テストを2回実施する。 (3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	演習課題レポート	○	◎	○			40%			
	授業内評価テスト	○	◎				40%			
	受講状況				◎		20%			
履修上の注意	再試験は実施しない									

科目名	システム開発演習 I										
科目名(英)											
単位数	3単位		時間数		90時間		担当者		打越 直美、北島 仁宇		
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年										
授業概要	企業連携授業を通し、セキュリティ監視などで用いられるデータ分析基盤の基本用語、基本操作を身につける。また運用監視業務を実践的な環境で体験することで、運用監視に関する基本用語を押さえ、ビジネスマナーを意識して顧客に適切に報告するスキルを身につける。										
	iCDタスクコード		DV04.9.1、DV04.9.2、DV04.11.1								
授業形態	講義：		演習：		実習： ○		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				データ分析基盤に関する基本用語、概要を説明できる					
		○				Splunkを用いてデータ分析の基本操作を実施できる					
	○	○				ネットワーク運用監視に関する基本用語を説明できる					
		○				ネットワーク運用監視に関する報告書を作成し、ビジネスマナーを意識して報告できる					
テキスト・教材 参考図書	オリジナル教材										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	データ分析演習オリエンテーション									
	2,3	Splunkの基本用語、概要									
	4-10	Splunkの基本操作									
	11-30	Splunkによるデータ分析演習									
	31-33	データ分析演習まとめ					発表に向けた準備をすること				
	34	運用演習オリエンテーション									
	35,36	演習の進め方、演習①オンサイト対応と工事統制									
	37,38	演習②監視の登録と非監視対応									
	39,40	演習③冗長ルータ切り分け対応									
	41,42	演習④セキュリティ装置(UTM)問合せ対応									
	43-45	運用演習まとめ					発表に向けた準備をすること				
	評価方法	(1)複数課題を実施し評価する (2)受講状況の評価する ※やむを得ない事情を除き、企業演習不参加の場合は大幅に減点する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
データ分析演習課題		◎	◎		○		60%				
運用演習課題		◎	◎		○		20%				
受講状況					◎		20%				
履修上の注意											
	再試験は実施しない。企業連携授業は必ず参加すること(公欠などやむをえない事情は除く)。										

科目名	ビジネスコミュニケーションⅡ							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	逢坂 美千代	
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年							
授業概要	プレゼンテーション技法の基礎を正しく理解し、「話す力」、「伝える力」を高める実践的な演習を行う。							
	iCDタスクコード		該当なし					
授業形態	講義：△		演習：○	実習：		実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
		○		○		プレゼンテーション技法の基礎を説明できる		
		○		○		相手に伝わることを意識したプレゼンテーションができる		
テキスト・教材 参考図書	プレゼン資料のデザイン図鑑(ダイヤモンド社)							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	プレゼンテーションとは何か						
	2	プレゼンテーションツール作成の基礎知識						
	3	企画立案・情報収集法						
	4	プレゼンテーションツール別プレゼンテーションの留意点						
	5	①プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集					作成準備を事前に行っておくこと。	
	6	①プレゼン演習 発表会 <今の気持ちを正直に話す>					発表練習を事前に行っておくこと。 プレゼンシート提出。	
	7	②プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集					作成準備を事前に行っておくこと。	
	8	②プレゼン演習 発表会 <わかりやすく話す>					発表練習を事前に行っておくこと。 プレゼンシート提出。	
	9	③プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集					作成準備を事前に行っておくこと。	
	10	③プレゼン演習 発表会 <自由に発想する>					発表練習を事前に行っておくこと。 プレゼンシート提出。	
	11	④プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集					作成準備を事前に行っておくこと。	
	12	④プレゼン演習 発表会 <売れるプレゼン>					発表練習を事前に行っておくこと。 プレゼンシート提出。	
	13	⑤プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集					作成準備を事前に行っておくこと。	
	14	⑤プレゼン演習 発表会 <ネットで集めたデータを分析する>					発表練習を事前に行っておくこと。 プレゼンシート提出。	
	15	まとめ						
評価方法	(1)レポートまたは課題を数回実施する。(2)プレゼンシートを評価する。(3)発表を評価する。 (4)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	課題・レポート提出		◎		○		30%	
	プレゼンシート		◎				30%	
	発表		◎		○		20%	
	受講状況				◎		20%	
履修上の注意	再試験は実施しない							

科目名	一般教養ⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	畠添 正和
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報工学科 2年・情報システム専攻科 2年・情報システム科 2年 情報システム科アドバンスコース1年、情報システム専攻科アドバンスコース1年						
授業概要	就職筆記試験に関して以下の対策を行う。 ①「SPIテスト」前期から継続し、数学分野(未実施分)を含め、解説&練習問題を行う ②「CAB・GABテスト」テキストに沿って、解説&練習問題を行う ⇒ 授業内評価テスト(2回)を実施する ③ 漢字対策：麻生塾の「ミニテスト」を利用し、漢字の練習 ⇒ 確認 を行う						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形態	講義：	○	演習：	△	実習：		※ 主たる形態：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語分野・非言語分野の問題に対して解答を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(成美堂出版) 最新最強のCAB・GAB超速解法(成美堂出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	CAB・GAB対策(その1)					
	2	CAB・GAB対策(その2)、漢字対策(その1)					
	3	CAB・GAB対策(その3)、漢字対策(その2)					
	4	CAB・GAB対策(その4)、漢字対策(その3)					授業内評価テストの範囲を復習しておくこと
	5	授業内評価テスト①(CAB一連テスト)、漢字対策(その4)					
	6	CAB・GAB対策(その5)、漢字対策(その5)					授業内評価テストの範囲を復習しておくこと
	7	授業内評価テスト②(GAB一連テスト) SPI数学分野及び国語分野の対策(その1)、漢字対策(その6)					
	8	SPI数学分野及び国語分野の対策(その2)、漢字対策(その7)					
	9	SPI数学分野及び国語分野の対策(その3)、漢字対策(その8)					
	10	SPI数学分野及び国語分野の対策(その4)、漢字対策(その9)					
	11	SPI数学分野及び国語分野の対策(その5)、漢字対策(その10)					
	12	SPI数学分野の対策(その6)、漢字対策(その11)					
	13	SPI数学分野の対策(その7)及び SPI模擬テスト(textの別冊1)					
	14	SPI性格検査、CAB・GAB性格検査OPQ					
	15	SPI数学分野及びSPI国語分野の復習、定期試験対策					
評価方法	(1)定期試験を実施する。(2)授業の中で授業内評価テスト(30分間・2回)を実施する。授業の中で、SPI国語分野の補完として、漢字対策を実施する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	授業内評価テスト	◎	◎				30%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	クラウド						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	打越 直美
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2年・情報工学科2年・ 情報システム科アドバンスコース1年・情報システム専攻科アドバンスコース1年						
授業概要	クラウドの概念、AWSの主要サービス、料金、セキュリティ、アーキテクチャ、サポートに関する全体像を説明することができるようになる。						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形態	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				クラウドに関する基本用語、仕組みを説明できる。	
	○	○				IAM、VPC、EC2、S3、EFS、RDSの基本用語、仕組みを説明できる。	
	○	○				IAM、VPC、EC2、S3、ロードバランサ、オートスケーリングの基本的な設定ができる。	
テキスト・教材 参考図書	AWS Academy Cloud Foundations (AWS)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	コース紹介、モジュール1：クラウドのコンセプト					
	2	モジュール2：クラウドエコノミクスと請求					
	3	モジュール3：AWS グローバルインフラストラクチャの概要					
	4	モジュール4：クラウドのセキュリティ					
	5,6	モジュール5：ネットワークとコンテンツ配信					
	7,8	モジュール6：コンピューティング					
	9,10	モジュール7：ストレージ					
	11,12	モジュール8：データベース					
	13,14	モジュール9：クラウドアーキテクチャ					
	15	モジュール10：Auto Scalingとモニタリング					
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを数回実施する。(3) 受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験		◎	◎				40%
課題・レポート		◎	◎		○		30%
受講状況					◎		30%
履修上の注意							



科目名	ビジネスマナー						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	徳島 欽子	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	情報工学科 4年・情報システム専攻科 3年・情報システム科 2年 情報システム科アドバンスコース2年、情報システム専攻科アドバンスコース3年						
授業概要	ビジネスシーンに必要な名刺交換、電話応対などの基本的なマナーだけではなく、冠婚葬祭や食事の仕方などのその場に応じたマナーを学ぶ。						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形態	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		社会人として相応しいビジネスマナーを理解することができる。	
		○		○		社会人として必要な電話応対ができる。	
		○		○		冠婚葬祭のマナー、日常生活でのマナーを理解し実践できる。	
テキスト・教材 参考図書	入社1年目ビジネスマナーの教科書(プレジデント社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	訪問のマナー ～好印象を与える自己紹介の仕方(1)				自己紹介ができるよう準備をすること	
	2	～好印象を与える自己紹介の仕方(2)					
	3	基本マナー ～テーブルマナー					
	4	基本マナー ～言葉使い(1)					
	5	基本マナー ～言葉使い(2)					
	6	電話応対 ～報連相 ・電話応対の基本・電話の受け方の流れ ・かけ方の流れ					
	7	～電話の受け方演習、取次ぎ方演習				電話応対の流れを確認しておくこと	
	8	～電話のかけ方の流れ・かけ方演習					
	9	～電話応対テスト(1)					
	10	～電話応対テスト(2)					
	11	ビジネス文書のマナー				ビジネス文書を確認しておくこと	
	12	冠婚葬祭 ～冠婚葬祭のマナー					
	13	基本マナー ～名刺交換のマナー(1)					
	14	基本マナー ～名刺交換のマナー(2)					
	15	～組織と人間関係 ・総復習				全体の復習をしておくこと□	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業中に確認テスト(実技試験含む)を実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎		○		55%
	確認テスト	○	○		◎		25%
	受講状況				○		20%
履修上の注意							

科目名	データ分析基礎									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		山下 文夫	
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステムエンジニア専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年、情報システム科ネットワークエンジニア専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年									
授業概要	統計学分野の用語や考え方について体系的に学習し、データ分析を行うための基礎知識を学ぶ。									
	iCDタスクコード		AI03.4.2							
授業形態	講義：○		演習：△		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○					統計学の分野の各用語を説明できる				
	○	○				統計学の分野の各問題を解くことができる				
テキスト・教材 参考図書	阿部 真人 『データ分析に必須の知識・考え方 統計学入門』 ソシム、2021									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	統計学とは								
	2	母集団と標本								
	3	統計分析の基礎 データの種類、統計量								
	4	統計分析の基礎 確率								
	5	推測統計								
	6	信頼区間								
	7	仮説検定								
	8	仮説検定の計算					計算問題を復習すること			
	9	様々な仮説検定								
	10	回帰と相関								
	11	統計モデリング								
	12	仮説検定における注意点								
	13	因果と相関								
	14	ベイズ統計								
	15	統計モデル・機械学習モデル・数理モデル								
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テストを実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	◎	◎				50%			
	確認テスト	◎	◎				30%			
	受講状況				○		20%			
履修上の注意										

科目名	ネットワーク基礎										
科目名(英)											
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		打越 直美		
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年										
授業概要	TCP/IPネットワークに利用されている技術やツールについて学び、シミュレーションソフトを使用して、データ転送の仕組みやアプリケーションプロトコルについて理解する										
	iCDタスクコード		該当なし								
授業形態	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				IPアドレス、サブネットマスクの意味、サブネット化の計算ができる					
	○	○				要求に応じて、小規模LANの設計ができる					
	○					telnet、DNS、HTTPなどのアプリケーションプロトコルについて説明できる					
	○					OSI参照モデルの各レイヤの特徴を説明できる					
テキスト・教材 参考図書	シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト&問題集[対応試験]200-301(翔泳社)										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1-2	OSI参照モデル、TCP/IPモデル					OSI参照モデルについて復習すること				
	3-4	ポートとプロトコル									
	5-6	IPv4アドレスの特徴									
	7	サブネット化の目的					サブネット化について復習すること				
	8-9	サブネット計算(FLSM)									
	10-11	サブネット計算(VLSM)					サブネット計算について復習すること				
	12-13	Ciscoルータアクセス、設定コマンド					ルータ設定コマンドについて復習すること				
	14-15	スタティックルーティングの基本、設定					スタティックルーティングについて復習すること				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する (2)確認テストを3回実施する (3)課題レポートの提出を数回実施する (4)受講状況を評価する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他 評価割合	
	定期試験	○		◎						30%	
	確認テスト			◎						30%	
	課題レポート			◎				○		20%	
	受講状況							◎		20%	
履修上の注意											

科目名	情報処理試験秋対策						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	20時間		担当者	川野 啓祐
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2年・情報工学科2年・ 情報システム科アドバンスコース1年・情報システム専攻科アドバンスコース1年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形態	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1～5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				分からなかった部分の復習をしておくこと。	
	6～10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				分からなかった部分の復習をしておくこと。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 (2)課題・レポートを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				55%
	課題・レポート	○	◎				25%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない						